

○ 鷹司 綸子

(和洋女大)

目的 仕事着名称の分布形態にかかわる要因についての検討を試みる。仕事着は、同じ形のものでも所によって名称が異なる場合がある。縫製は娘宿・親・その他、これに堪能な奥さんなど、身近な人から直接に教えられることによって伝達されるものであるが、どのような名称がそれに宛てられるようになったかは、より流動的に多くの要因が関わったものと考えてきた。そのれがどのようなものであるか検討を試みるのが本研究の目的である。

方法 民俗誌・緊急調査報告・生活調査等からみた仕事着名称分布を交通・交易・通婚圏などの生活の諸要素と併せて、その関わりから検討を行う。これまでに、東北地方について日本海側と太平洋側に分けて検討したので、今回は関東地方北部栃木・群馬・茨城、そしてこれに連なる産業を持つ埼玉の諸県を対象とした。

結果 当地域では周辺部を除き、総体的に男は“はんてん”女は“はんてん”“きもの”系統の名称が広い範囲で用いられ、東北地方に見られたような細かい地域差が比較的少ない。これは周辺部は隠れ里伝説が伝えられるような険しい山々に囲まれ、東北・甲信越と関わる文化圏にあるが、全体では広大な関東平野の多くを占め、通婚圏はここでも一般には広くないが、古代から多くの支配者が覇を競って入れ替り、主要な交通路、海路もひらけて、産物は早くに商品化されたものが多くしかも産地帯が県を越えて連なっていたりする。こうした地域情勢が、いわば都会的な名称を汎用する原因となったと考えられる。